

# Fauna of Kanazawa Castle Park during 1999-2000

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Ohgushi, Ryoh-ichi, Nakamura, koji, Takata, Kenta, Utsunomiya, Daisuke, Takimoto, Yosuke, Owaki, Jun, Akashi, Daisuke, Takehashi, Hisashi, Kawahara, Nanae, Ishihara, Kazuhiko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00029553">https://doi.org/10.24517/00029553</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 金沢城公園の動物相 (1999-2000年)

大串 龍一・中村 浩二・高田 兼太・宇都宮 大輔  
滝本 陽介・大脇 淳・赤石 大輔・高橋 久  
川原 奈苗・石原 一彦

(2003年8月29日受付, Received August 29, 2003)

(2003年9月11日受理, Accepted September 11, 2003)

### Fauna of Kanazawa Castle Park during 1999 - 2000

Ryoichi OHGUSHI・Koji NAKAMURA・Kenta TAKATA・Daisuke UTSUNOMIYA  
Yosuke TAKIMOTO・Jun OWAKI・Daisuke AKAISHI・Hisashi TAKAHASHI  
Nanae KAWAHARA・Kazuhiko ISHIHARA

#### まえがき

金沢城公園は金沢市街地の中央にあって、これまで比較的豊かな自然環境を維持してきた。とくに本丸地区を中心とする森林や草地は、北陸地方の低地の自然環境と動植物相を反映したものである。それは人為的変化の著しいこの地域の原自然状態と、近代から現代にかけての変容を推測するために、貴重な観測定点の役割を果たすものと考えられる。そこで蓄積される資料は、同時に環日本海地域の環境と動植物の保全のための基礎として、今後とも重要な意味を持っている。

この調査は、金沢城公園としての整備がすすんでいるこの地区の、野生動物を中心とした自然環境の現状を把握し、多くの人の生活と生業が行われている都市の中におけると人間生活との共存をはかるための基礎資料を積み上げることがを目的とする。

本報告は1999年度から開始した調査のうち、2001年5月末までの結果をまとめたものである。この時期は、金沢大学移転ののち放置されていた金沢城址の利用計画が具体化し、2001年秋の全国都市緑化フェア、2002-2003年の加賀百万石博覧会の会場としての整備が始まった時

で、さまざまな建築や土木工事によって城内の環境が大きく変わってゆく途中であった。ここで報告する期間のうちに、都市緑化フェアにむけて庭木や鑑賞用植物の大規模な栽植が始まり、それに伴って多くの動植物が侵入してきた。今回の調査記録は、大規模な土地造成と建築等が進行しているが、まだ外部からの動植物の人為的な導入が始まる前の状況である。

本報告はこの期間に調査地域内で確認された野生動物の種数を記録し、今後の参考資料とすることを目的とする。確認された種名のリストは、別の機会に報告する。

#### 調査地の環境

金沢城址は金沢市の市街地の中心にあり、県庁(調査時)、市役所はじめ官公庁や銀行、デパート、ホテルなどの都市の中核をなすビルディング群の中に、深い緑の森を乗せた丘陵が、その横に並ぶ兼六園の木立とともに、ひととき目立っている。

金沢城址の基礎となっている地形は、犀川と浅野川の造った扇状地にはさまれた小立野台地の先端を切り離して加工した半ば人工的な丘陵である。400年以上前にこ

ここにあった丘陵の谷を埋め高い部分を削って、南東から北西にかけて本丸、二の丸、三の丸、新丸の4段の平坦地が造られている。この周りに鶴の丸、玉泉院丸、藤右衛門丸等のやや小さな平坦地が配置されている。

築城工事によって、もとの丘陵地形は大きく変わり、一部の大木を除いて植生もほとんど無くなったと推定される。ここに深い堀を掘り、石垣を築いて自然の丘陵と違った複雑な地形が造られた。それに伴って多様な気候・土壌条件が生まれ、明治以降、建物などの多くが取り払われて森や草原となると、多くの動植物が生息できる条件が出来た。

2001年現在、まとまったもとの植生が残って、野生の動植物が多く生息しているのは本丸の約2ヘクタールと、いもり坂から玉泉院丸、甚衛門坂に至る空堀の周りの森の約1ヘクタールと推定される。今回の調査もこの地区を中心に行っている。

## 調査の方法

哺乳類は生息痕跡（巣穴などの利用状況、糞、食物の残り、冬の積雪上の足跡など）を観察し、また目撃記録

を集積して、棲息・活動状況を推測した。

鳥類は季節ごとに早朝の巡回観察を繰り返して種と目撃頻度、繁殖その他の生態記録を集積した。

両生類・爬虫類のうち両生類については、地区内の水域を中心に観察を繰り返し、目撃記録を集積した。爬虫類については石垣、溝などを昼間と夜間に繰り返し調査し、その他の場所についても観察例を集積した。

魚類は大手堀と地域内の防火用水における両生・爬虫類、昆虫などの調査のさいに観察された記録をまとめた。

無脊椎動物・昆虫類は草地のすくい網法、梢の叩き網法、ピットフォール法を実施するとともに、地域内を巡回してランダム採集ならびに観察をおこなった。

## 結果

この期間に採集あるいは確認された野生動物のうち2003年8月までに同定・確認された種数を、動物群別に集計した資料を表1にまとめた。この表に示したように、脊椎動物78種、昆虫を除く無脊椎動物88種、昆虫791種の合計957種が記録された。

各動物群について、観察あるいは採集記録をもとにし

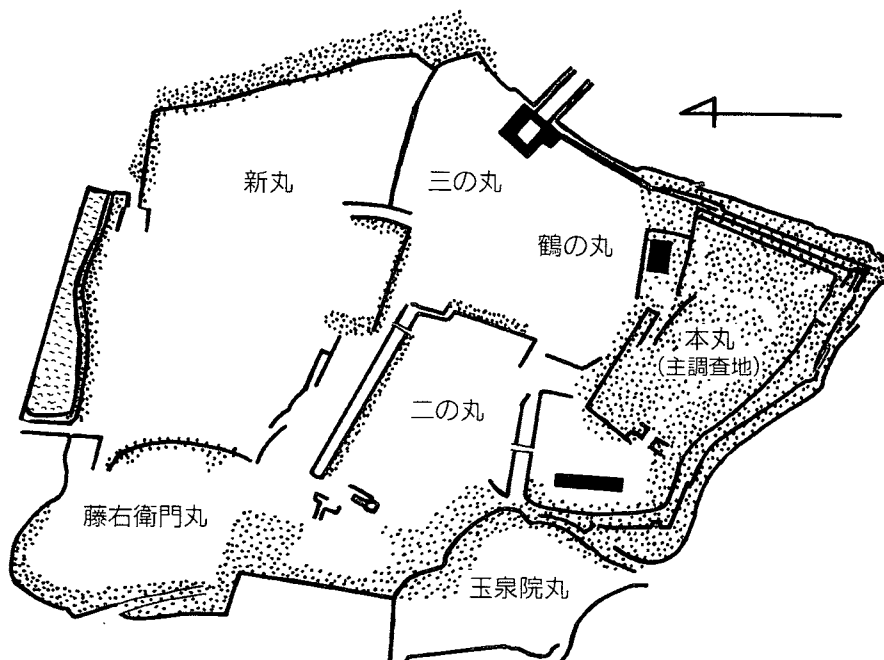


図1 金沢城公園の平面図

点の部分は調査当時は植生の残っていたところ。調査中および調査後にかなり変化した。このうちの本丸地区を中心に調査をおこなった。

てその現状を以下に記述する。

表1 1999-2000年度に金沢城公園で確認された動物の種類数

脊椎動物	
哺乳類	3
鳥類	62
爬虫類	8
両生類	3
魚類	3
小計	79
無脊椎動物（昆虫を除く）	
環形動物	2
軟体動物	6
クモ、等脚類、多足類	80
小計	88
昆虫	
トビムシ目	2
カゲロウ目	5
トンボ目	14
ゴキブリ目	2
カマキリ目	3
シロアリ目	1
バッタ目	28
ナナフシ目	1
ハサミムシ目	1
チャタテムシ目	3
カメムシ目	106
アミメカゲロウ目	15
コウチュウ目	303
ハチ目	100
ハエ目	42
トビケラ目	1
チョウ目	164
小計	791
合計	958

## 各動物群の現状

### （哺乳類）

哺乳類のうち、以前からここに定住していることが知られているタヌキとアカネズミが、1999-2000年度も生息していることは、目撃記録や痕跡から確認されている。しかしその生息数は減っているようである。また断続的にはあるがアナグマが観察されたという証言がある。

ノネコは定住していない。公園整備工事の進行とともに人の出入りや滞在が多くなり、それに伴って周辺の市街地のドブネズミ等が侵入する可能性があるが、公園内部においてはドブネズミ、クマネズミ等の家ネズミ類は確認できなかった。

### （鳥類）

1999-2000年度に金沢城公園で確認された鳥は次の62種である。

アオサギ、ダイサギ、ゴイサギ、カルガモ、トビ、ハヤブサ、イカルチドリ、ユリカモメ、カモメ、キジバト、ドバト、ホトトギス、フクロウ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、アカゲラ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ヒレンジャク、コマドリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、インビヨドリ、クロツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、メボソムシクイ、コメボソムシクイ、センダイムシクイ、オオルリ、サメビタキ、コサメビタキ、エゾビタキ、サンコウチョウ、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウガラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、アトリ、カワラヒワ、ウソ、イカル、シメ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス

なお、これ以外に金沢市内の野鳥観察者によるオオタカ、ミヤマガラス等の観察が伝えられている。

### （爬虫類）

調査期間中にカメ3種（クサガメ、イシガメ、アカミミガメ）、トカゲ2種（ニホントカゲ、カナヘビ）、ヘビ4種（アオダイショウ、シマヘビ、ヤマカガシ、タカチホヘビ）の生息が認められた。2001年度になってもヤマカガシ、アオダイショウなどのヘビ類を観察する機会はかなり多い。

本丸北側の石垣下に、1998年に城内整備のために造られた浅い側溝に、タカチホヘビの幼蛇が落ち込んで出られずに死亡する事故が、1999-2000年の梅雨期には頻繁に見られた。

### （両生類）

両生類はイモリ1種（アカハライモリ）とカエル2種（モリアオガエル、アマガエル）が観察された。丘陵上にある城址は乾燥しているので両生類にとっては好適な環境ではないが、この3種の生息が確認された。

#### (環形動物・軟体動物)

地表採集で記録できたミミズは2種、カタツムリやナメクジなどのいわゆる陸貝類は6種が採集された。ノトマイマイやヤマナメクジなど比較的湿度が高い森の中にいる種が見られる。

#### (節足動物1－クモ類, 甲殻類, 多足類)

ザトウムシを除くクモ類とヤスデ、ムカデの類は、クモ類(75種)を主として88種が記録された。大型のクモはジョロウグモを除いてはほとんど見られない。

ザトウムシはオナガザトウムシだけが採集出来た。

ダンゴムシ、ワラジムシの類は6種採集されている。比較的希少な種とされているオカトビムシとセグロコシビロダンゴムシは、本丸の森林内部の林床の落葉の間や石の下にかなり生息している。

#### (節足動物2－昆虫類)

調査期間に採集された昆虫類のうち791種が2003年8月までに同定された。なお同定作業が困難な若干の分類群(トビムシ目, チャタテムシ目, アザミウマ目)の調査はまだ進んでいない。昆虫のなかでも主要な目であるが、同定が困難なグループを含むハチ目(とくにヒメバ

チ, コバチ類), ハエ目(とくに小型のハエ類)を別とすれば、コウチュウ目, チョウ目, カメムシ目(カイガラムシ, アブラムシ類を除く)の種数が多く、なかでもコウチュウ目が300種を越えている。昆虫のなかで比較的種数が少ない(石川県で記録されているのは34種)アミメカゲロウ目がこの狭い地域内だけで15種見いだされた点も注目される。

### 要 約

1970年代から調査している金沢市街地中央部にある金沢城址における、1999-2000年度の期間に採集・観察して野生動物の種数を、2003年8月までに同定できた資料にもとづいて報告した。その結果、脊椎動物79種、昆虫を除く無脊椎動物88種、昆虫791種が確認された。

なおこの調査にあたって、金沢城公園(当時は金沢城址公園)の一般公開地区以外の部分も含む公園内への立ち入り調査を許可された石川県土木部公園緑地課兼六園金沢城公園管理事務所にあつくお礼申し上げる。